

## 分野:器官系統病態学

主科目 副科目	皮膚科学 Dermatology	区分	選択必修	授業形態	演習 (講義・実習含む)
------------	---------------------	----	------	------	-----------------

担当	教授	准教授	講師	助教	客員教授・その他
板橋	◎多田 弥生	大西 誉光 鎌田 昌洋	石川 武子	田中 隆光	
ちば		◎佐藤 友隆			豊島 進 (助手)
-					

	皮膚科学Ⅰ (1年次)				皮膚科学Ⅱ (2年次)				皮膚科学Ⅲ (3年次)			
	単位	4単位	配当年次	1年・通年	単位	4単位	配当年次	2年・通年	単位	4単位	配当年次	3年・通年
概要	皮膚の基本的な構造、病理、主な疾患についての臨床、病理所見の講義を行う。皮膚科の診断や治療に必要な基本的な手技(生検、皮膚外科手術、微生物学的検査、エコーやダーモスコピーによる画像診断、採血、レーザー治療)の演習・実習を行う。自己免疫性水疱症、膠原病などの診断に必須である蛍光抗体法の原理を講義で理解し、演習でその手技を会得する。さらには、実際の患者検体を用いた検査を行う。皮膚疾患の基礎研究に必要な細胞培養法、実験動物の飼育・操作法、免疫学的あるいは分子生物学的技法を学ぶ。				皮膚の構造を形成する蛋白質について、より詳細にその種類と機能、皮膚疾患との関連性についての講義を行う。それらの蛋白質の検出の方法を演習で学び、組織の免疫染色を固定の方法によらず、施行できる手技を演習で学ぶ。実際に診断が問題になる患者において、染色を施行する実習を行ない、診断に役立てられるようにする。皮膚科の診断や治療に必要な手技のレベルについてはさらに演習、実習を通して指導者レベルにまで高めていく。皮膚疾患の基礎研究に必要な細胞培養法、実験動物の飼育・操作法、免疫学的あるいは分子生物学的技法を引き続き学ぶ。				代表的な皮膚疾患の臨床症状を形態的に認識し、理解し、その病態を説明できる能力を向上させる。あらゆる皮膚疾患の臨床・病理所見を皮膚科臨床医の前で口頭発表し、臨床上的問題点についての的確な見解を述べるができるよう、経験を積む。皮膚疾患を臨床所見、組織所見から診断し、治療ができるための知識、技術を習得する。病理組織学的、細胞生物学的、免疫学的、分子生物学的技法を駆使して、皮膚疾患の病態解明、診断・治療法の開発にかかわる研究を行う能力を修得する。研究成果を学会発表することで公開する。			
到達目標	皮膚疾患患者の基本的な診察法、診断・治療技術を習得する:病歴の聴取、視診・触診による皮疹の性状の評価、診療録への記載、さらに必要な検査(生検、微生物学的検査、画像診断、採血検査など)の考案と実践、臨床・病理学的所見の総括的評価、診断を決定、治療法・治療計画の策定と実践(手術、投薬、レーザー治療など)、治療効果の評価と治療計画の修正などができる。				皮膚疾患全般にわたって病因、病態、臨床・病理所見、診断、治療などについて基礎的な事を述べるができる。皮膚病理組織診断技術を習得する。皮膚疾患の基礎研究に必要な細胞培養法、実験動物の飼育・操作法、免疫学的あるいは分子生物学的技法(RT-PCR、Western blot、ELISA、gene reporter assay、flow cytometryなど)を行うことができる。				皮膚疾患患者についての発表能力を体得する。皮膚疾患の病態解明、診断・治療法の開発に役立つ研究を行うためのin vitro、in vivoの実験系を計画、施行、有意な結果を導き、結果について正しく考察し、結論に到達することができる。			
事前事後学修	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 実験においては特に必要な物品を準備し、使えるように物品の取扱い説明書予習しておくこと。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。				次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 実験においては特に必要な物品を準備し、使えるように物品の取扱い説明書予習しておくこと。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。				次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 実験においては特に必要な物品を準備し、使えるように物品の取扱い説明書予習しておくこと。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。			
評価方法	受講態度 80% (発表・リアクションペーパー・課題提出) レポート 20%				受講態度 80% (発表・リアクションペーパー・課題提出) レポート 20%				受講態度 80% (発表・リアクションペーパー・課題提出) レポート 20%			

## ■主な演習(講義・実習含む)

	皮膚科学Ⅰ (1年次)	皮膚科学Ⅱ (2年次)	皮膚科学Ⅲ (3年次)
板橋	火 曜日 18 : 00 ~ 19 : 30 皮膚疾患の診療と基礎研究	火 曜日 18 : 00 ~ 19 : 30 皮膚疾患の診療と基礎研究	火 曜日 18 : 00 ~ 19 : 30 皮膚疾患の診療と基礎研究
	木 曜日 13 : 00 ~ 16 : 00 皮膚レーザー治療	木 曜日 13 : 00 ~ 16 : 00 皮膚レーザー治療	木 曜日 13 : 00 ~ 16 : 00 皮膚免疫実験
	火 曜日 16 : 00 ~ 18 : 00 症例検討会/病理組織検討会	火 曜日 16 : 00 ~ 18 : 00 症例検討会/病理組織検討会	火 曜日 16 : 00 ~ 18 : 00 症例検討会/病理組織検討会
ちば	火 曜日 16 : 00 ~ 18 : 00 皮膚疾患と病理	火 曜日 16 : 00 ~ 18 : 00 皮膚科領域の免疫組織化学	火 曜日 16 : 00 ~ 18 : 00 炎症性皮膚疾患の病態
	月 曜日 14 : 00 ~ 17 : 00 蛍光抗体法	月 曜日 14 : 00 ~ 17 : 00 免疫組織化学	月 曜日 14 : 00 ~ 17 : 00 皮膚科治療学
	水 曜日 14 : 00 ~ 16 : 00 外来カンファレンス、病棟総回診	水 曜日 14 : 00 ~ 16 : 00 外来カンファレンス、病棟総回診	水 曜日 14 : 00 ~ 16 : 00 外来カンファレンス、病棟総回診
—	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :

## 教科書・参考書

皮膚科学 渡辺晋一ほか編。文光堂、東京。新しい皮膚科第3版 清水浩。

## その他履修上の注意事項

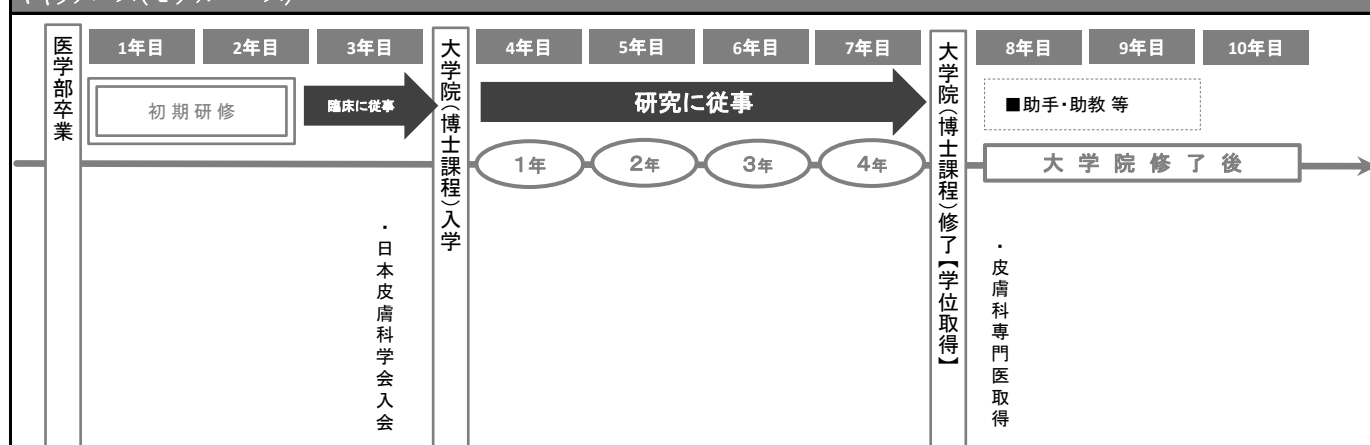
第1、2学年にあつては、指導医のもと病棟主治医としてベッドサイド教育を受け、外来処置医として皮膚科処置、小手術を担当する。第2学年にあつては、第1学年の内容に加え、病棟以外に外来診察(半日×2回/週)を指導医のもとに履修する。第3学年にあつては、原則病棟主治医を離れ、講義、演習、実習、外来診療にて臨床経験を継続するとともに、指導医のもとに実験/研究に従事し学会発表等を行う。研究テーマに関連のある知識を修得するため、関連する国内外の学会へは積極的に参加する。試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

関連科目	副科目	関連領域(人体病理学・病理診断学、感染免疫病態制御学、分子生体機能学、内科学系、外科学系、形成・口腔顎顔面外科学など)の中から1科目以上、履修する。
	共通科目	

## 関連する専門医資格

日本皮膚科学会入会5年以上で日本皮膚科学会認定皮膚科専門医受験資格が得られる:受験には認定前研修実績として講習受講、学会発表、原著発表について定められた総単位数、計150単位を取得する必要がある(<http://www.dermatol.or.jp/>)

## キャリアパス(モデルコース)



※社会人枠のキャリアパスについては各講座にお問い合わせください。